

ウーマン・イン・スポーツ

各紙掲載記事より

92年12月～93年5月

●92年12/24(日経) 57歳、勝つて「ほっと」卓球の全日本選手権で、元全日本チャンピオン、出場35回目の伊藤藤和子(57)が通算97勝目を挙げた。今後も体が許す限り挑戦し続ける。

●12/25(朝日) 日本女性初キックボクシングチャンピオン 山梨県のキックボクサー熊谷直子(21)が、米国ラスベガスで行われた世界キックボクシング協会(WKA)認定女子フライ級タイトル戦で米国選手を破り、日本人女性初のチャンピオンとなった。

●93年1/11(読売) 中2女性ジャンパー いずみさん2位 女性ジャンパーの山田いずみさん(14)が、スキージャンプ全日本大会ノーマルヒルジュニアの部で二位に入った。今後のテーマは「V字」に挑戦すること。

●2/1(産経夕刊) スキーマラソン 国内初の「女性マスター」 小樽市の棚元道子さん(63)がイタリア・カバリエの国際スキーマラソン大会で十大会走破を達成、日本女性初の「ロケットマスター」になった。この称号は市民スキーマラソンの国際組織「ワールドロケット」が公認した十二の国際スキーマラソン大会のうち十大会を走破した人に与えられるもの。

●2/15(朝日) 聖火リレー見せ、肌見せぬ イスラム圏の女性のための国際スポーツ大会がテヘランで始まった。西側からの女性の権利抑圧の批判をかわず狙いから、開会式や聖火リレーは報道陣を含む男性にも公開された。大会の運営はすべて女性が行うことになっているが、周辺の警備も聖火リレーの付き添いも男性ばかり。会場周辺を歩く女性は髪や肌を隠すヘジャブを着け、男女の「区別」は歴然。

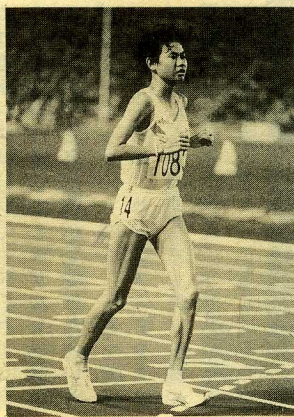
●2/16(報知) 柔道界女性指導者初のコーチ留学 山口香・全柔連強化コーチ(28)が、日本オリンピック委員会(JOC)派遣の一年間の在外研修のため、英国ロンドンに出发した。

●2/18(産経夕刊) Jリーグ元年 高まる女子サッカー熱 サッカー人気が大きく盛り上がる中、「応援だけではものたりない」OLや女子大生が激増中。今年からチャレンジ・リーグが設立され、「がんばれば日本のトップにも手が届く」という思いも、彼女たちを熱くさせる理由の一つか。

●2/20(日経夕刊) 高校生アメフト女子の参加OK 米テキサス州の教育委員会は、今秋のアメリカンフットボール高校対抗リーグ戦から、男子学生に交じって女子学生も参加できることを多数決で決定した。

●2/25(朝日) 女性スポーツ用品事情 米紙「USAトゥデー」が「女性には女性用のスポーツ用品が必要なこと」にやっと気づき始めた」というリポートをまとめた。自転車や下着等、米国の女性のスポーツ用品に対する意識は高い。それに比べ日本は、用品に底の浅さが現れている。

●3/20(読売) ゆっくり育てよう 長距離ランナー 女子マラソンバルセロナ五輪代表の小嶋由水(21)が引退を表明した。同五輪女子一万メートルに出場した五十嵐美紀も昨年九月、二



▲バルセロナ五輪での小嶋由水選手 ©フット・キンモト

十一歳の若さで引退している。この早過ぎる引退は、すぐに「結果」を求める企業の論理が先走ったためともいえる。それと、女子の指導者の不在も一因。選手たちが気軽に悩みを打ち明けられる「駆け込み寺」があれば、これらの不幸は未然に防げただろう。

●3/23(朝日) 長崎宏子さん IOC選手委員に JOC職員の長崎宏子さん(24)が、国際オリンピック委員会(IIOC)の選手委員会委員に就任することになった。

●4/25(朝日) バンチは強烈 女性ボクサー 英にプロ協会誕生 紳士・淑女のお国、英国で女性ボクシング協会が誕生して話題を集めている。現在、十二人のボクサーが登録し、希望者は百人近くいる。

●5/13(日経夕刊) 頑張る女性審判 白球に一声入魂 神宮外苑審判協会に経験十二年のベテラン、宮田節子さん(52)がいる。重労働に加え、男性審判より人々の風当たりが強いのもたしか。しかしスポーツが好きでたまらない女性には「見る、する」から「つかさどる」へ。審判は新たな活躍の場になるのではないだろうか。